

2026
8/16
(日)

宮津燈籠流し 花火大会

●御詠歌

午後6時30分～

●燈籠流し・精霊船流し(点火)

午後7時20分～

●花火打上(約2000発)

午後7時50分～午後8時35分(予定)

●盆おどり大会

花火終了後～午後9時30分

駐車場は完全予約制

会場周辺に無料駐車場はありません

※今年は大会公式臨時駐車場が事前予約及び有料となります。



・300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊

・荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～

・1300年つづく日本の終活の旅
～西国三十三所観音巡礼～



※詳しい情報は、左記QRコードを
読み込んで大会ホームページを
ご覧ください。

お願い

▶会場内での禁止について

喫煙、テント・三脚・自撮り棒の使用を禁止しています。

▶小型無人機(ドローン)等の持込み使用禁止について

花火大会当日、ラジコン飛行機や無人飛行機(ドローン)等の飛行が発見された場合、花火打ち上げの
中断もしくは、中止を余儀なくされる場合があります。

皆様のご理解、ご協力を
よろしくお願いします。

宮津燈籠流しの由来 (先祖からの伝統を守る)

昔、細川藤孝が入国して海辺に城を築き、城下町が形づくられました。ところが、関ヶ原の役の年に細川勢が上杉征伐に出払っている間に攻められ、留守を守っていた藤孝は宮津城を焼いて田辺(いまの舞鶴)に退きました。その後、入国した京極氏が田辺から商人や職人を呼びよせて再建しました。

その頃から城下の人々は、盆に迎えた先祖の霊を、ふたたび極楽浄土へ送るため、供物にささやかなともしびを添えて海へ流したのが、燈籠流しの始まりと云われています。

やがて海へ流す供養火の美しさが評判となり、多くの見物客を迎えるようになりました。新仏の家から流される「精霊船」を囲むように、五千有余の「追掛燈籠」がゆらゆら宮津湾に流れはじめ、五彩七彩の打上げ花火、大スターマインが夜空にはじけ、海と空が一体となる火の祭典は「丹後の宮津」が年に一度海と空にささげる最大の催しでございます。

【主催】 宮津燈籠流し花火大会実行委員会 【後援】 京都府・(公社)京都府観光連盟・海の京都DMO

【お問い合わせ】 実行委員会事務局 宮津市産業経済部商工観光課観光係 ☎0772-45-1625 宮津商工会議所 ☎0772-22-5131

※交通渋滞が予想されますので、ご来場には京都丹後鉄道および丹海汽船などをご利用ください。